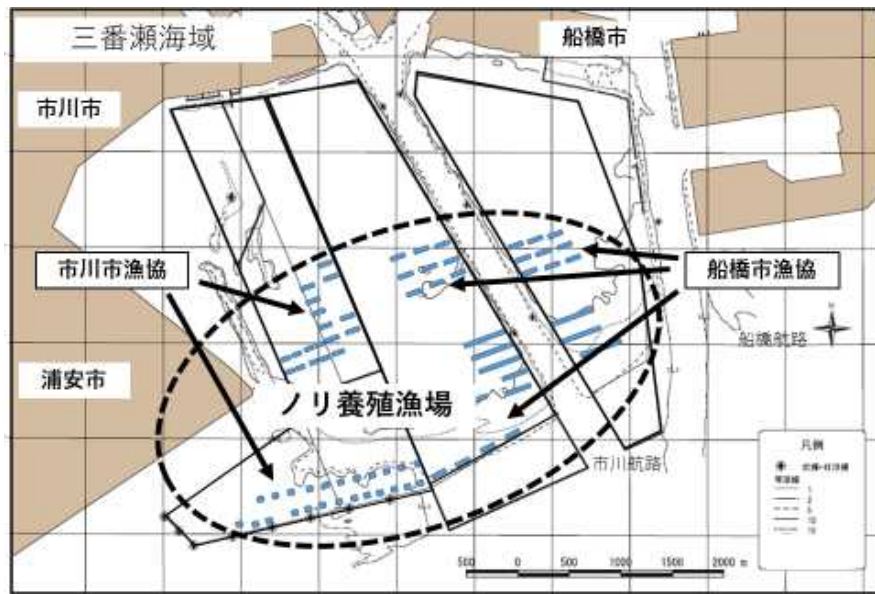


1 三番瀬のノリ養殖漁場



- 三方を陸に囲まれた閉鎖的な地形のため流れが弱い
- 水温が高い外洋系水が流入した場合に水温が急激に上昇するなど、水温の変動が大きい

2 三番瀬漁場におけるノリの生産状況と課題

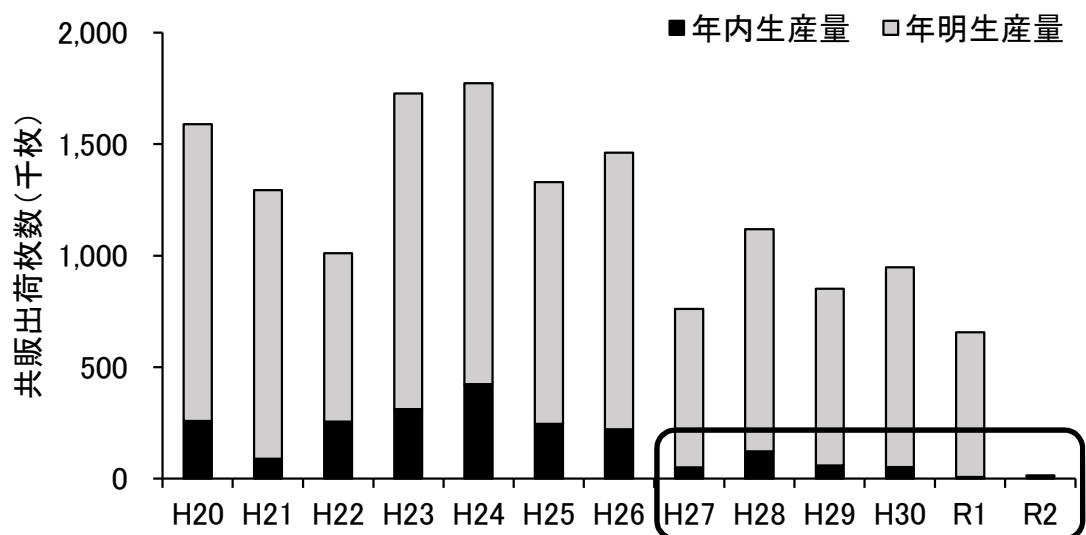


図1 千葉北部地区の共販出荷枚数

※R2 は生産中のため年内生産期のみの値

- 27 年度漁期から年内生産期の支柱柵漁場において生育不良
- さらに、R1 漁期から年内生産期のベタ漁場においも生育不良

3 令和元年度及び2年度の取り組み

(1) ノリ芽健全度調査

健全な種網を育成するために、育苗期にノリ芽の検診及び養殖指導を行った。

○令和元年度

10/21～11/15 に市川市及び船橋市漁協のノリ網について、合計 8 回の調査を行った。10/12 の台風 19 号、10/25 の台風 21 号に伴い漁場の比重が低下したため、大部分の網は張り込みを見合わせたほか、避難入庫を行い、被害は最小限に止められた。その後、概ね順調に経過し、ほぼ予定通りに種網が確保された。

○令和2年度

10/12～11/2 に市川市及び船橋市漁協のノリ網について、合計 7 回の調査を行った。10 月下旬に市川で疑似しろぐされ症の初期症状が確認されたため、速やかに活性処理を行うよう指導した。その結果、疑似しろぐされ症は蔓延せず、ほぼ予定通りに種網が確保された。

(2) 年内生産期の生育不良の原因と対策

年内生産期の不作原因を明らかにし、対策指導等を行った。

○令和元年度

- ・ 11/21～12/24 に市川市の支柱柵及びベタにおいて、水中カメラや赤外線カメラによるノリ網の定点観察を行った。
- ・ 支柱柵では、潮汐で網が水面付近になるとヒドリガモが飛来し、網上や網下からノリを食べる様子が特に夜間において頻繁に観察された(図 1)。ヒドリガモの出現頻度が低下すると、ノリの生育が好転したため、不作の主な要因はカモの食害と考えられた。
- ・ ベタでは、クロダイがほぼ毎日ノリを食べる様子が観察された(図 2)。木更津及び富津地区では、平成 28 年度からクロダイの食害による生産被害が確認されていたが、当地区のベタ漁場でクロダイの食害による生産被害が顕著化したのは本漁期が初めてであった。
- ・ 令和元年度漁期の当地区の年内生産量は、約 7 万枚であり、前年比 14%の大不作であった。

○令和 2 年度

[対策指導等] 当地区の年内不作の原因は、カモやクロダイの食害の可能性が高いため、防除ネットによる対策が必要であり、漁期前に事前に防除ネット等の準備をするように指導した。

[不作調査]

- 11/9 から市川市の支柱柵及びベタにおいて、水中カメラや赤外線カメラによるノリ網の定点観察を開始した。現在も継続中である。
- 支柱柵では、カモとクロダイの食害が確認され、出現頻度はカモが高かった。防除ネット設置の有無によるノリの生長比較では、ネットを設置している場合は生長するが、ネットを設置していない場合は生長しなかったため、生長を左右する要因は食害であると推察された。
- ベタでは、11月からクロダイが群れで出現し、ノリを食べる様子が確認された。12月上旬～中旬がピークで、以降、断続的に出現し、1/3以降はほぼ出現しなくなった。その後、ノリは順調に生長した。
- 防除ネットを12月上旬に試験設置したところ、ノリは順調に生長した(図3)。
- クロダイの食害は、水温10℃以下で収束した。
- 当地区の年内生産は、防除ネットを設置した市川市の支柱柵のみであったため、約14万枚の2年続けて大不作となった。

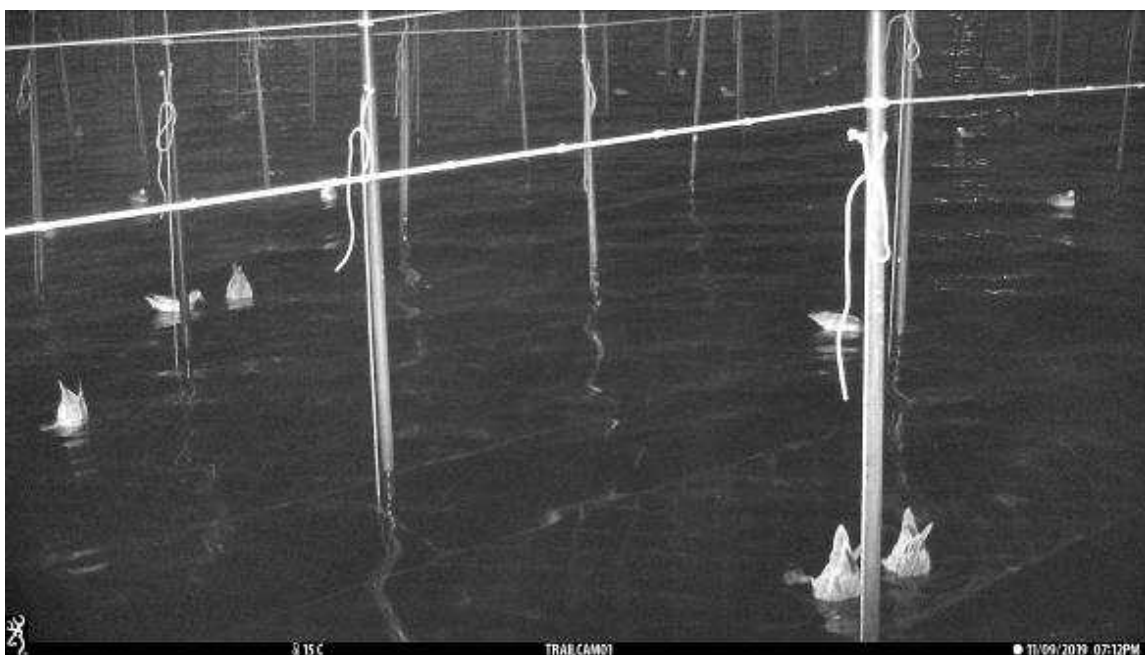


図1 2020/11/9 07:12PM ノリを食べるヒドリガモ



図 2 2020/12/11 08:40AM クロダイの大群

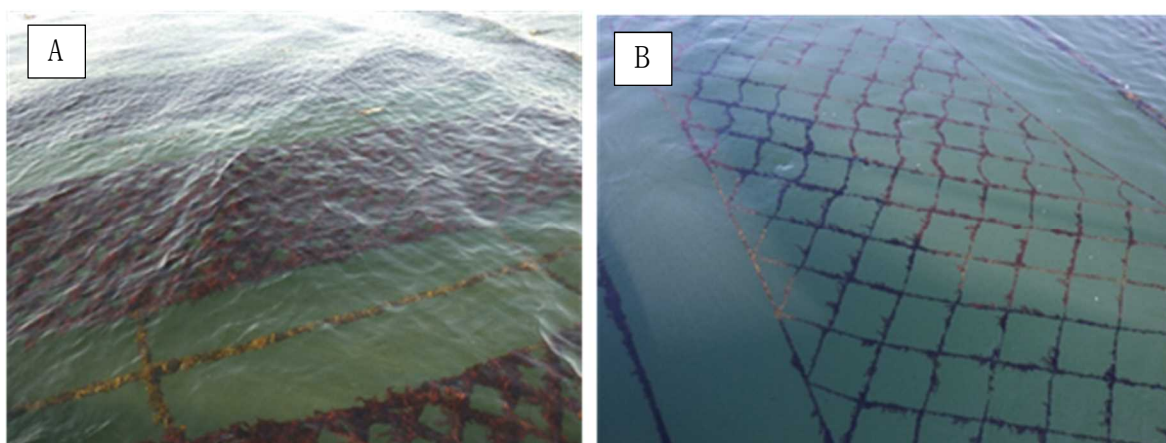


図 3 防除ネットの食害防除効果 (A ; 敷網式防除ネット設置区, B; 未設置区)

【参考：生産状況（2月末現在）】

地区	枚数		金額	
	千枚	同期比	千円	同期比
三番瀬	3,682	75%	64,470	75%
(市川地区)	2,219	76%	38,422	72%
(船橋地区)	1,463	74%	26,048	79%
木更津地区	7,493	90%	174,634	127%
富津地区	26,196	57%	444,972	62%
全 県	37,371	63%	684,077	73%
全 国	5,056,010	108%	57,340,080	85%

※県内の同期比はH27-R1までの5か年平均との比較とした。

全国の同期比は前年度との比較とした。